#### ストライク・カラーズ《閃光のライ》

秋月光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト http://pdfnovels.net/

#### 注意事項

は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ 囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、 テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。 この小説の著作権は小説の作者にあります。 このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ 小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。 そのため、作者また 引用の範

【小説タイトル】

ストライク・カラー ズ《 閃光のライ》

【エーロス】

【作者名】

秋月光

【あらすじ】

ITCHES] の少年を発見する。 944年、 の基地 連合軍第501統合戦闘航空団【STRIKE その地下で遺跡が発見され、 そこで一人 W

その少年は記憶喪失になっていて、仕方がなく記憶が戻るまで基地 内で雑用する事になる。

しかし、 それが決まろうとした時ネウロイの接近を知らせる警報が

そして年若いウィッチ達は敵に向かい、 残された少年は密かに願う

力が......大切な何かを救い、守る力が欲しい...... そして、

少年は力を手にする。

願った思いは守護にして救済、手にしたのは魔法の力.....今、

少年は空を舞う.....

### プロローグ (前書き)

版を参考にしている! 最初に言っておく! この作品のストライクウィッチーズはアニメ

ている!! ついでに言っておく! ロストカラー ズのほうは自己解釈が含まれ

説明ですみません。 .....某、電車の王が出てくるライダー作品のある人物の名乗りでの 秋月光です。

予告どおり出しちゃいました。 も更新がばらつきます。 T H E STRIKERS"と並行作業になりますので、どちら " NANOHA Z O N E O F

それを踏まえたうえで、 暖かく見守ってください。

#### プロローグ

ような事を 繰り返 したくない	
	 事 を

1944年、連合軍第501統合戦闘航空団基地内

「え~と後は地下室のお掃除かな?」

に入って来る。 1人の少女がモップと水の入ったバケツを持って、 薄暗い地下室

戦区にて、それぞれの国から優秀なウィッチを募り編成した戦闘航 24航空戦隊288航空隊の機械化航空歩兵であり、 そして彼女が居るのは、 少女の名前は宮藤芳佳。 ブリタニア連邦にある 歳は14歳、扶桑皇国海軍遣欧艦隊第 階級は軍曹。 世界各国の激

空団、 HES】の基地その地下室である。 第501統合戦闘航空団 通称【STRIKE WITC

宙に漂わせた。 芳佳が地下室の扉を開けると中に澱んでいた空気が対流し、 埃を

ごほっごほっ.....ここ、 けっこう使ってないみたいだ」

そうして拭いた後の床がキレイになっていく。 そして彼女は水で濡らしたモップで埃だらけの床を拭いていく。

「ふ~.....それにしてもここって倉庫かな? それとも資料室?」

ていた。 棚も見えるが木箱がその前をふさいでいて、 そういって芳佳が辺りを見渡すと、床には紙の束が散らかり、 一種の混沌を作り出し

あらかた拭いたら次は片付けかな」

そう呟いて、 奥のほうもモップで拭こうとする.....が

.....ビキッ!

......今、床からいやな音が.......」

のか そして芳佳がゆっくりと視線を下に下げると コンクリー ト製の床にひびが入り、 脆くなっていた

バカンッ!

は重力に従って 人1人を飲み込むほどの大穴が開く。 当然、 その上に居た芳佳

「キャアアアアァァァァァァ !!.

暗い穴底に落下していった。

???

う、うぅうん.....

薄暗い闇の中、芳佳が目を覚ます。

開いて ......えぇっと........たしか地下室を掃除していたら......床に穴が

事で、土から飛び出し絡み合った木の根がネットの役割をして、 下の衝撃を殺してくれたようでホッとした。 これまでのことを思い出し、 ハッとして仰向けの身体を見ると無 落

は頑丈らしく、伝っていけば戻れるかもしれない。 れている。 自分を助けた木の根は穴の近くまで伸びていて そして上を見上げると、高いところに落下した穴から外の光がも その事を確認して、ふと周りを見渡すと 根

ここって.....何かの遺跡?」

そう、遺跡だった。

明るく、 新種の苔だろうか? 広い空間を照らしていた。 苔が緑色に光り、 辺りは思っ ていたより

な意匠の壁。 と加工石のオブジェ で作られた床や壁、 照らされた空間からは明らかに人の手と思われる、 なにか儀式で使われていたと見える大きな祭壇 そして、 その奥に見える大きな扉のよう 加工された石

遺跡に気が付かないで、 そのまま上に基地を建てたのかな?」

祭壇や、 芳佳は受け止めてくれた木の根から石の床に降り立つ。 その上にあるオブジェに触れ、 最後に石の大扉の前に来た。 そして

「それにしても、なんだろう.....この扉?」

うやって開けるのか解らない..... な感じがして よく見ると扉には 芳佳は優 なにか鳥を象った意匠が削られ しく扉に手を触れる だが、 開かない石扉からは不思議 ていて、

7

えつ!な、何!?」

次の瞬間、石扉に削られてた意匠が赤く輝く!

が芳佳の足を揺らし、 禍々しく、 しかしどこか神聖な赤い光が遺跡を染め、 轟音が鳴り響く! 同時に振動

源で縦に二つに割れ、 突如起こった振動に足を捕られながら芳佳は、 横にスライドし始めた大扉を見る。 振動と轟音の発生

動かないはずの扉が開いた先に芳佳が見たのは

奥行きも広さも感じない、 色を失ったような灰色一色の視界

よく見るとその中心に灰色ではない のがあった。

灰色で無いモノ.....それは人間だった。

だ(それを見て芳佳が顔を少しの間赤くした) うなものを着て下は同色の長いズボン、それと対照的に髪は白銀色 年は大体17歳前後で、 瞼は閉じているが 性別はたぶん男 顔は整っていて、 はっきり言うと美形 上は黒い学ランのよ

架に張り付けられているように力なくぐったりしている。 彼は生きているのか、死んでいるのか..... 灰色一色の世界に十字

(何だろう.....なんで、 あの人を助けたいって思うんだろう?)

かって手を伸ばす。 芳佳は自身の気持ちに従い、遠近感が解らず、 とりあえず彼に向

た るように崩れ落ちた。 手が届かないと思っていたが、すんなりと彼の手を握る事がで その瞬間、灰色の世界に浮かんでいた彼は、 芳佳にのしかか

?

況から一気に顔を朱に染め、 そして、のしかかられていた時から握っている手から人の体温を 彼が異性である事と、 押し倒されている 何とか彼を動かし仰向けに寝かせる。 ように思える

手の中に感じる体温も徐々に冷たくなっていく。 芳佳は急いで脈をはかる......その鼓動は弱く、 呼吸も浅い

頭から薄茶色の尖った犬の耳と旧型スクール水着状のボディスーツ そして両手を目の前で横になっている彼に向けて、 芳佳は急いで魔法で治療しようと自身の魔力を高める。 の腰辺りから犬耳と同色の短い犬の尻尾が姿を現す。 その際

そこから空の

ように青く 優しい光を彼に浴びせる。

お願い!死なないで!!」

芳佳には一つの思いがあった。

皇国で診療所を営んでいる.....その血筋のせいか、芳佳は強大な魔 母親と祖母は成人しても魔力も治癒能力を失っておらず、今も扶桑 ウィッチは10代をピークに年齢と共に魔力を失うが、宮藤一族の ンジンとストライカー ユニットの開発者である宮藤一郎博士で 力を秘めてお 0歳 の頃に死に別れた父は人類がネウロイと戦うための魔道エ ij

自分の力を、人々を救う力として使いたい。

法の上手く制御が出来ない彼女はいつも以上に集中し、 とする.....そして その思いが、彼を生かそうと あまりに強大な魔力のため、 彼を癒そう

,う ……」

ıΣ の肌色に戻っていった。 触れる肌は温かみを増し、 その思いが実ったのか。 ロウのように白かっ 脈は段々と強く、 た肌が人として 呼吸も正常に戻

がなくなりながら良かっ それを確認して芳佳は魔法使用時の疲労を顔に出し、 たと微笑む。 犬耳と尻尾

゙ はあ、はあ.....よかった 」

芳佳ちゃ~ ん?!」

「宮藤! いるのか?! いたら返事をしろ!」

地下室から戻らない事と、扉が開いた振動で心配になったのだろう 自身の上官である坂本美緒少佐の声が聞こえる.....たぶん長い時間上のほうから親友のリネット・ビショップ 通称リーネ と そして気付くと扉はまた堅く閉じられていた。 ۲

芳佳ちゃん、 は い ! ここに居ます!」 怪我とかない? 大丈夫?」

「う、うん大丈夫。 それより手を貸して! ここに人がいたの!」

「人だと? そいつはどんなヤツだ!」

「えっと、男の人でたぶん学生。 私の魔法である程度回復しまし

たけど、衰弱しています!」

のタンカを持ってくる! 「なんで基地の地下に人が..... IJ いや、 ネはロープで下に降り、 詮索は後だ、 今から吊るし式 宮藤をサポ

ートしろ」

解りました!」

そして開いた穴からロープが下ろされていく...

「あ、気が付きましたか」・うっ......ここ.....は......?」

· きみ.....は.......?」

私は宮藤芳佳といい ます。 あなたは誰ですか?」

「.......僕は......」

彼は腕を動かし、手を額に当てる。

駄目ですよ 衰弱しているのに無理にうご

「 誰だ......?」

え?.....」

### プロローグ (後書き)

スト・カラ座談会

?????「ついに始まったね」

さん?」 そうですね ってなんで?????なん

?????「僕がまだ名前言って無いのに出したら変でしょ」

芳 佳 「確かにそうですけど……」

かったよ」 ?????「それにしても僕に乗っかかられて赤くなった顔、 可 愛

さんのせいでしょ!? な 何言うんですか! のしかかってきた

?????「その時、僕意識無かったからね」

芳 佳 「あうっ~ / / / 」

?????「ほら、 赤くなってないで、 やる事あるでしょ」

したストライク・カラー ズ《閃光のライ》 あ、そうだった!え~と、 新たに始まりま

?????「どつか、 温かい目で見守ってください。 感想等お待

### ちしております」

??&芳佳『それでは次回予告をどうぞ!!』

N e x t

鮮明にさせようとする。 基地地下遺跡から現れた記憶を失った少年は、 いる警報が基地に響く。 しかしその前に魔女たちの敵が近づいて かすかに残る記憶を

次回、ストライク・カラーズ《閃光のライ》 魔導騎士 が 生まれた日 Mission1:

それが、僕の運命なら!

連合軍第50 1統合戦闘航空団基地内:| 階 医務室

゙そう.....その扉の向こうに彼がいたのね」

空団,通称【STRIKE ィートリンデ・ヴィルケだった。 空団"通称【STRIKE「WITCHES】の隊長、ミーナ・デう室内でその言葉を発したのは、ここ"連合軍第501統合戦闘航 窓の外は夕暮れを通り過ぎ、 闇に染まりかけ、 薬品のにおいが漂

式の担架に乗せ、そのまま彼は医務室で簡単な検査を受けた。 聞いた後の事を短く説明すると い、芳佳とリーネが力を合わせ彼を坂本少佐が持ってきた吊り下げ 今椅子に座っている芳佳の傍ら 彼はその後、衰弱からか気を失 ベットで寝ている少年の事を

復をすればすぐに良くなる 軍医からの検査結果は衰弱が激しかっただけで食事による体力回 との事だった。

経緯を説明した。 を眼帯で隠している坂本少佐と隊長であるミーナに彼と会うまでの そして当事者である芳佳は、 彼女を手伝ったリー ネ、 そして右目

に有りうるのかしら?」 扉の向こうが遠近感の無い 灰色一色だった て ホント

いました!」 「私だって今でも信じられませんけど.....それでもこの人はそこに

| 芳佳ちゃん......

と思うぞ」 ら来たという人物がそこに居るのだから、 ミーナ.....疑いたくなるのは事実だが、 最初から疑うのはどうか 現にその石扉の向こうか

向ける。 そしてミー ナは一端息を吐き出し、 話の中心に居る銀髪の少年に

処から来たのかよね」 たしかに居るのだからしょうがないわね.....あとは彼が誰で、 何

ら、聞けるかどうか.....」 「でも、芳佳ちゃんが言うには記憶喪失になっているらしいですか

魔法で回復したショックで一時的に混乱しているのかもしれん。 起きたらもう一度聞いてみよう」

坂本少佐がそう言った時だった。

「うっ!」

「目を覚ましたか」

..... ここは? きみは.....たしか、 あの時.

空色の瞳が芳佳を捕らえ、 少年は思い出そうとする。

ええっと、あの時も言いましたけど。 宮藤芳佳っていいます」

「宮藤.....さん?」

聞けなくなるのはまずいからな」 宮藤、 食堂に行って何か食事をもってこい、 また気を失って話を

作ってきますから」 はい。 ちょっと待っててください、 なにか身体にい 61 のを

「あ、芳佳ちゃん。 私も手伝うよ」

ナ、そしてベットで横たわる少年のみが残された。 芳佳とリーネが医務室から廊下に出て行き、 室内には坂本とミー

に向く。 そして坂本の左目とミーナの視線は先ほど起きた少年の空色の瞳

「あなた達は.....?」

こちらから名乗ったほうがいいな。 人に名を聞く時は自分から と思ったが、 記憶喪失らしいから

ウィッチーズ所属、 私は坂本美緒、 連合軍第501統合戦闘航空団、 階級は少佐だ」 通称ストライク

言ったストライクウィッチーズの隊長よ。 ア連邦にある連合軍第501統合戦闘航空団基地よ。 「私はミーナ・ディートリンデ・ヴィルケ。 それとここはブリタニ 心 さっき美緒が

あなた、名前は思い出せるかしら?」

「......僕は.....ライ.....だと思います」

ふむ、苗字とか出身とか、 他は思い出せないのか?」

い顔をした。 そう坂本が聞くと、 彼は数分間、 思い出そうとして その後暗

すが、 国は は .....どうしてここに居るとかも..... 分かりません......僕のフルネームがどんなのかも、生まれ 少なくても違う気がして.....何処で生まれて、何をしていて さっきのブリタニアという言葉がなんか聞き覚えが有りま ..... 名前以外で、 覚えているの た

その時、医務室の扉が数回ノックされる。

誰だ?」

「宮藤です。 彼の食事を作ってきました」

「そう、入って」

を注いだコップを持って、 ミーナがそう言うと扉が開かれ、 芳佳とリーネが入ってくる。 ーに器に盛ったお粥と、 水

その. 衰弱していましたから、残っていたご飯でお粥を作ってみました」 .....ありがとうございます。 宮藤..... さん....... それと...

....

し、それと彼女は私の友達で 「えっと、さん付けはいいですよ。 \_ あなたの方が年上のようです

リネット・ビショップといいます。 その、 あなたのお名前は?」

「……たぶん、ライだと思う」

たぶんって.....やっぱり、記憶が.....」

芳佳の言葉にライが横になったまま頷く。

その、ごめんなさい」

謝らなくていいよ......それに、ありがとう」

「......えつ?」

じた、身体を包む暖かい何かも.....宮藤ちゃんが、僕を助けてくれ たんだよね?」 一番に覚えているのは.....暖かい手、だったんだ。 その後に感

くのが分かる。 ライが微笑みながらそう言うと芳佳の顔が段々と赤く染まってい

· あっあの、その ///

「芳佳ちゃん! トレー、トレーが!!」

「えっ?......うわっ! とっとと!?」

事なきを得る。 ろそかになり、 芳佳はライに微笑まれた事とちゃん付けで呼ばれた事で手元がお お粥と水をこぼしそうになる寸前でリーネが支え、

はい.....あと、もう一つだけ.......」.....それが覚えている事なのか?」

何なのライさん?」

眺めならが口を開く。 ミーナがそう聞くと室内全員の視線がライに向き、 ライは天井を

願った.....なにを、ですか.....?」 覚えている.....と言うより。 願った"ことなんです.....」

か。を、手に入れたい 「うむ……その大切な何かと、如何にかする何かは同じものか?」 たぶん、違うと.....思います......」 うろ覚えだけど......大切な、 って願いだったと.....思うんだ」 "何か"を.....どうにかする。 何

そして、 その沈黙を破ったのは芳佳の近くに居るリーネだった。 数秒間沈黙の空気が室内を占めていた.....

それにお粥が冷めちゃいますよ!」 あの、 たぶんお腹になにか入れたら思い出すかもしれません

がれますか」 ..... そうね、 まず体力を回復させないとね。 ライさん、 起き上

大丈夫です.....それぐらい、 な.....ら......」

起こす。 ミーナに訊ねられ、ライは答えながら何とか上半身をベットから

寝ていたため狭かった視界が広がり、 を見て、 学生服から浴衣に着替えさせられていたライは、 なぜか固まり、 絶句する。 自分以外の室内に居る人たち 今までベットで

「ん? どうしたんだライ?」

「……あの……坂本、美緒少佐?」

「なんだ? あと、少佐とかつけなくていいからな、 好きに呼んで

いだ

不躾な事一つ聞いてもいいですか?」 「えと、じゃあ坂本さん.....記憶を失ったせいかも知れませんが、

「ああ、答えられる事なら何でも聞くぞ!」

そしてライはなぜか赤くなり、全員から視線を外しながらが問う。

あの、 なんで皆、 下穿いてないんですか?」

「 は ?」

「へ?」

「「え?」」

その質問にライ以外の全員が間の抜けた声を上げる。 ちなみに上から坂本、ミーナ、芳佳とリーネの声である。

「美緒、 わよ?」 なにをいう、ちゃんと穿いているではないか!」 落ち着いて!だけどライさん、 私達ちゃんと穿いている

「うん、 を訊いたんですか?」 「ズボンならもう穿いてますよ。 すみません ちゃんと穿いているけど でもスカートは? ねえリーネちゃん」 ズボンは?」 ライさん、どうしてそんな事

## IJ ネがそう言うとライは左手で頭を抱えながら答える。

ういう一般常識も忘れたのか、 いや、 僕が普通にそう感じたからなんだけど..... 僕は....?」 もしかして、 そ

そう言って頭を抱えながら思い出そうとし、 落ち着き始めた坂本が口を開く。 考え始めるライを見

チを見た事がないという事かもしれん」 るは当て嵌まらん気がする。 「さっきは怒鳴ってスマン......しかしライの言った常識を忘れてい もしかしてその年になるまでウィッ

ないわ」 「そんな事はないとは思うけど それなら辻褄が合うかも知れ

「……ウィッチ?」

それに反応してミーナと坂本は顔を見合わせる。 ライが顔に疑問符を浮かべてミーナと坂本を見る。

は思うが? 「ミーナ... 心 ある程度の事をライに聞かせたほうが言いと私

てくれますか?」 私も同感よ美緒。 ライさん、 お粥を食べながら出い いので聞い

「あ、はい」

ナと坂本の話を聞く..... ライは芳佳からお粥を貰い、 スプーンですくって食べながら、 Ξ

謎の異形 939年、 の軍隊 " ネウロイ, 突如世界各地に出没した、 正体・目的共に不明の

彼等は大型建造物も一瞬で破壊する圧倒的な攻撃力を持ち、 さら

土地は瘴気によって人が住めなくなるため、 に人体に有害な"瘴気" 人間では遠距離からの攻撃以外なす術がない。 を撒き散らしながら進行するため、 数々の国が滅ぼされた。 そして侵略された 通常

ライカーユニット, と" しかし、 ット"と"魔女"である。人類はネウロイと戦うすべを見出す。 それが" スト

魔力による飛行能力や身体能力強化、 力を増幅させ、 した足に装着する推進装置の事で、これを装着することによって、 に使えるように出来るようになる。 ストライカー ユニットとは、 推進力などのエネルギー に変換するエンジンを搭載 魔導エンジンと言う 防御魔法などを特別な訓練無 使用者の

である。 それを唯一扱えるのが、 魔力を発揮できる少女達、 通称" 魔ウィッチ 女チ

ットを装着した時は魔力の増幅で様々な能力を発揮できる。 かしたり、ごく稀にほうきで空を飛ぶ程度だが、ストライカーユニ 普段は魔力のフィー ルドを張ったり、 ちょっとした質量の物を動

持つことも困難な銃火器も軽々と持ち、魔法陣による防御シールド ことが出来る。 を張ることが出来、 さらにストライカーユニットの魔力増幅機能により、通常の ネウロイが放つ瘴気の中でも影響なく活動する 人が

ことが出来、 などの歩兵の携行できるサイズの兵器で、 た弾丸・刀剣などで再生能力を大きく減ずることが可能で、 ネウロイは魔力による攻撃に弱く、 逆にネウロイ側の攻撃も防御魔法でほぼ防ぐことが出 ウィッチが使う魔力を付加 十分なダメージを与える 機関銃

ストライカー ユニットを駆り、 ネウロイ達と戦う対ネウロイ戦闘

戦闘航空団"や、 を食べ終わったのは、それらの説明全てが終わった直前だった。 れの国から優秀なウィッチを募り編成した戦闘航空団゛連合軍統合 機械化航空歩兵" 大まかな国名などの説明を聞いていたライがお粥 そして世界各国の激戦区にて、 それぞ

のはあったか?」 以上が大まかな説明だが......今までの中で聞いた覚えがある

ののように感じるんです......」 んど聞いたことがありません......ブリタニア連邦については、 た事があるような感じでしたけど.....説明を聞くうちに、 ......いいえ、忘れているだけかもしれないですが どれもほと 聞

「 う ー む ...... これは 重症かも しれんな、 ミー

そうね美緒..... あと思い出すきっかけになるものといえば

ライさんが居た遺跡.....ですか?」

少なくても今のライの状態では無理だろう」 そこで発見したんだ。 何かしら手掛りがあるかもしれんが

「そうですね.....最低でも満足に動けるぐらい

にはなりませんと..

漆黒の夜闇に包まれていた。 ネの言葉を最後にふと坂本が窓の外を見るともうすでに外は

おけ、 もうこんな時間か、 寝ている間に思い出すかもしれん」 宮藤、 IJ ネはもう寝ろ。 ライも今は寝て

っ は い、 分かりました!」

分かりました」

なっているライだけだった。 そして女性達が医務室を出て行き、 後に残ったのはベットで横に

て電気が落とされ、 窓から月光が照らすだけ の暗い医務室で

「僕は何者で、何を願ったんだろう......」

たスパイだった。 ライは考える.....もし自分が彼女達の敵 その思考は普通の人間からしたら笑い飛ばされるだろうが、 もし彼女達に危害を加えたら ネウロイが造り出し

彼にとっては有り得るかも知れない可能性そのものだ。 彼の頭の中には、 闇の中で聞こえた芳佳の声がはっきりと残って

お願い! 死なないで!!"

を、 衰弱していた事も、 その声に含まれる本気の優しさ、そして願 ライは傷つけたくないと願っていた 記憶を無くした事をも心配してくれる優しさ 1

気がする) 傷つけたくない"? なんだろう..... 僕が願った事に近い

そして夜の闇が蔓延する窓の外に、 それは光の粉を撒きながら遠い闇の向こうに飛んで行く。 何かが見えた。

......ラー ラ..... ラララ、 ラ...... ラーラー

赤子を寝かせるような歌声にライは身をゆだね..... 静かに眠りに落 ちていった. そして同時に耳に 11 や 心にも聞こえる歌声 やさしく

「 ...... どう思う、ミーナ」

かといって彼の服装は作業員とも思えないわ」 えだけど、彼は嘘をついていないようだからスパイの線は消えるし、 「そうね.....普通なら上層部のスパイや、遺跡の発掘作業員って考

の世界から来た......しか説明が付きそうにないが 「......残っているのは宮藤の言うとおり、その扉の向こう 灰色

「とりあえず、現状は保留ね。 したほうがいいと思うわ」 彼の記憶が戻った時に考えて行動

憶が戻らなかったら.....基地の清掃員として働かせるか?」 「そうだな......体力が回復したら地下の遺跡を見せて、それでも記 ..... フフ、. .....何も知らずに外に放りだすわけには行くまい?」 少なくても記憶が戻るまでの間は......ではなくて?」

そうね.....でも、何かが起こる気がするのよ」

丁度、今夜はキレイな満月だった。そしてミーナは空に浮かぶ月を見る

·???

ころせ....

赤い炎が踊る 多くのものを焼きながら.

殺せ、殺せ.....

焼けた木と鉄、 そして肉の臭いが鼻をつく.

死ね、殺せ..... コロセー

回りと同様に地面も赤く染まる.....それは炎で紅くなってい

るのではなく.....

死ネ!

シネ!

殺 セ !

コロセー

......そして腕の中で横たわる

ウワアアアアアアアアア

叫び声を上げ、 掛けていた布団を吹き飛ばしながらライは飛び起

きる。

その顔には大量の汗が吹き出し、 呼吸も荒くなっていた。

「ゼェゼェ.....ハア、ハア、ハァ

段々と荒かった呼吸が戻っていき、 ある程度落ち着いた所でライ

は額に流れる汗を拭った。

そして医務室のドアの向こう 廊下から誰かが走ってくる足

音が聞こえ

ライさん! どうしたんですか?!」

## 開け放たれたドアから、 寝巻き姿の芳佳が姿を現す。

「ハア..... 宮藤..... ハア..... ちゃ

どうしたんですか!? 汗びっ しょりじゃ ないですか?!

いや.....もう覚えていないけど、どうやら悪夢を見たみたいで..

... 今、何時?」

「えっと……真夜中の1時位だと」

「たったの4時間睡眠か……」

61 たのを確認していたので、そこから睡眠時間を割り出した。 ライは寝る直前に壁に掛けられた時計で午後9時あたりで床に就

とりあえず汗を拭きますから浴衣を脱いでください!」

「いや、大丈夫だから

ちゃんと拭かないと治るものも治らなくなります!」

「......じゃあ、お願いします」

せる。 芳佳の気迫に押されて、 ライは着ていた浴衣の上半身をはだけさ

そして窓からの月光にさらされ、 ライの肉体が闇に浮かび上がる

「? どうしたんだ?」

筋肉ムキムキの身体でもないが、 部分をそいでいったような異性の体に顔が赤くなっていた。 はっきり言うと芳佳はライの肉体 適度に引き締まり、 肥っている訳でもなく、 そして無駄な

な なんでもないです! 背中を向けてくれますか?

/

゙あ、うん。 じゃあ前は自分でやるから」

ライは芳佳に背を向けて渡されたタオルで汗を拭う。

と、ウィッチ専用の部屋がある区画にまで響いたライの叫び声で眠 まで追われ っていた全員が飛び起き、その混乱をミーナと坂本が静める事に朝 ちなみに芳佳はライの汗を拭き終わるまで顔を赤くしていた事 後に深夜の絶叫事件と呼ばれるのは別の話

早さに医師は驚いていたが...... 軍医から後一日もすれば完治するとの事だった 体力は回復していて、まだふらつくが歩けるぐらいにまでになり、 その夜が明けた次の日、ライは起きた後一睡も出来なかっ その際、 回復の

正直、 ライは回復するのにもっとかかるのではないかと思ってい

(もしかしたら宮藤ちゃんに治療魔法を掛けて貰ったからかな?)

が食事の載ったトレーを持ってきた。 そして、医務室のドアが軽く叩かれ、 などとベットに上半身を起こしながら考えていた。 廊下から割烹着を着た芳佳

「食事、持ってきました」

「ありがとう、宮藤ちゃん」

いえいえ! 私は、 私のできる事を精一杯やりたいからやっ

ているんです! ///

「そうか......じゃ あ朝食もらうね」

そう言われて芳佳はライにトレーを渡した後、

近くにあった椅子

をモクモクと食べ続ける。 ラフにコンソメスープ、 に座り、 ライはベットに座ったまま朝食を摂る サラダと洋風の食事だった。 メニュー はピ ライはそれ

「うん、とても美味しいよ! お口に合いましたか? 一応私とリー ネちゃんで作ったんですけ 宮藤ちゃん、 料理上手い んだ

理しかできないんですよ! 「そ、そんな、 リーネちゃんが手伝ってくれなかったら私故郷の料 //

「それでもこれだけ美味しいのが出来ているなら上出来だと思うけ

一人だけの医務室にそんな会話が生まれ、

ライの心を暖かくする

この警報は!」

しかし、

それを打ち破るように警報が鳴り響く

まさか.....坂本さんが言っていた ネウロイの接近です!! 私 行かなきゃ

手を掛け 芳佳はすぐに椅子から立ち上がり、 医務室を出ようとドアノブに

机に置いといて下さい!!」 ライさんは医務室に居てください! あと食べ終わったら近くの

「宮藤ちや

大丈夫です..... ライさんも基地の皆も、 私達が守って見せます!

4
_
_
いう言っ
言
-
=
=
_
$\overline{}$
_
_
_
•
_
וכד
71
,,
75
から
$\sim$
_
_
╵╱╴
14
-
===
マゎ
ᅏᄼ
47
医務
_
幺
至
至
幺な
至を
至を
至を記
至を山
生を出
室を出
至を出
<b>全を出て</b>
<b>全を出て</b>
至を出て
全を出て
全を出てに
全を出て行
至を出て行
至を出て行
至を出て行っ
て行っ
至を出て行った
て行っ
て行っ
て行っ
て行っ

し前に居た芳佳の位置に	そして室内に残されたライはいつの間にかドアに
向かって手を伸ばしていた。	イはいつの間にかドアに
た。	正確には少

.....それって......彼女が死ぬ事もあるんだよね.......?) (宮藤ちゃんが.....人類を守るために、 刃を振るう....?

突然の事でぼやけていた頭にその考えが染み渡った瞬間

「ツッ・!!」

頭に激痛が走り、 脳裏にある映像がフラッシュバックする...

赤い世界の中、 二人の誰かが僕を守るために身体を盾にして

... " やめろ..... やめてくれ

!!

そして二人とも、僕に向かって崩れ落ちて.....

足どりで医務室を出て行った..... り、食べかけの食事を載せたトレー 頭を襲った激痛がひいたあと、 ライは何とかベットから立ち上が を近くの机に置いた後、 危ない

## 同時刻、基地近くの海上

ガー 敵は今まで雲を隠れ蓑に接近してきた! は接近して攻撃、 宮藤とリーネは後方で援護射撃!」 私とルッキーニ、 イェ

法が大気中のエーテルと反応して可視化したプロペラを回転させ、 引き連れ、ネウロイが雲の中から降下してきたポイントに向けて足 飛翔する。 に装着したストライカー ユニットから高速・連続で発生する飛行魔 年少のフランチェスカ・ルッキー ニと部隊最速のシャ イェー ガー ネウロイ 、そして新人隊員の宮藤芳佳とリネット・ビショップを の強襲に、 坂本はすぐさま集まったメンバー ロリ **!** 部隊 Ε 最

現れる! 体に小型の同じ形をしたユニットを上下左右に接合したネウロイが したネウロイ特有の黒い装甲の そして飛行する全員の視界に、 部に赤いビーム発射口を備え、 ロケット弾のような大型の形状を 胴

待て、 少佐! 今確認する!」 コイツのコアは何所にあるんですか!?」

す。 シャ ロット (通称シャー IJ の問いに坂本は右目の眼帯を外

ウィ ッチには固有魔法と呼ばれる能力がある

の能力は血筋による所が多い。 芳佳がライを治療した魔法がその固有魔法と呼ばれるもので、 そ

# そして坂本の固有魔法は【魔眼】

の弱点である"コア" 右目の魔眼で、 常人より遥かに遠くを見渡す事ができ、 の位置を見分ける能力を持つ。 ネウロイ

ているのである。 しかし、その能力は脳の処理を重くするようで平時は眼帯をつけ

そし て坂本の視界に、 怪しい光を放つネウロイのコアが浮かび上

先端部に確認した。全機、攻撃開始!」

る! そしてウィッチ達がそれぞれが持つ武装をネウロイに向け攻撃す

1 3 m メージを与えていく! 後方にいるリー ネのボー イズ対戦車ライフルによる狙撃が着実にダ ブローニング自動小銃)が火を吹き ルッキー 二のM R機関銃から放たれた銃弾がネウロイの装甲を削っていき、 1919A6重機関銃が、シャーリーのBAR( 坂本の九九式二号二型改

ィッチ達を落とそうとする。 しかしネウロイからも赤く禍々しいビー ムを全方位に照射し、 ウ

分の装甲を貫けないでいた。 ウロイがいくら火線を集中しようと巨大なシールドで受け止める。 シールドを張り、 わりに防御している芳佳のシールドは内に眠る潜在能力からか、 だが宙を舞うウィッチ達は的確に回避し、 一見してネウロイは不利だが、 撃墜されないでいる ウィッチ達は弱点のコアがある部 または魔力による防御 その中でもリーネの代

「さすがに大事な部分は堅く守るよな......む~!」なかなかコアが出ないよ~!」

ルッキー ニとシャー リー の声にリーネが坂本に進言する。

で出来る限り削るぞ!!」 はいっ!」 今、ミーナに聞いたがあと2分もすれば後続隊が来る。 少佐! 基地に応援を要請できない んですか!? それま

た小型ユニットを切り離す。 ネウロイは、 その話を聞いてあせったのか、 胴体に接合してい

「っ! 全員警戒態勢!」「坂本さん!」

たユニットが自在に飛翔し、 その行動に警戒を発した坂本の言葉が終わった直後、 ウィッチ達に襲い掛かる! 切り離され

「全機止まるな! 止まったらやられるぞ!!」「ツ!? けっこう速い!」

ッチ達は攻撃される! まで多角攻撃をしのいでいた 飛翔するユニットからビームが放たれ、 なんとか回避と防御に専念し、 さまざまな角度からウィ 援護が来る

突貫してくる! しかし、 その混乱に乗じて、 一つのユニットが芳佳の死角から

「 しまった!!」 「 芳佳ちゃん!!」

「ヨシカ!!」

「避けろっ宮藤!!」

合わない距離に迫っていた 皆の叫びに芳佳が気付いた時、 ネウロイはシー ルドも回避も間に

数分前:基地、庭園

「あれが、ネウロイ.....人類の、敵......」

戦闘の様子を、 気付かないうちに拳を握り、唇を咬みながら見ていた。 ライはふらつく足で何とか見える場所まで行き

僕には何も出来ない..... (あそこで宮藤ちゃんが 彼女達が戦っている.....それなのに、

助けたいとも思っていた。 ライはなぜそう思うのか、 それは今も分からなかった.....だけど、

: そして、 心のどこかで何かが掴めそうな気がしていた。

する。 くから見ていたライは芳佳に迫るユニットを見て、 多数の方向から放たれるビームにウィッ そしてネウロイが分裂し、 彼女達に襲い掛かる。 チ達が翻弄される中、 その意味を確信 遠

まさか、特攻しようというのか?!

その言葉通りにユニットは加速を続け、 気が付かない芳佳に迫る!

宮藤ちゃん! 気付いて!!」

聞こえるはずが無いのにライは叫ぶ その間にもネウロイの

ユニットは彼女に迫る!

大丈夫です.....ライさんも基地の皆も、私達が守って見せ

ます

あの時聞いた、 彼女の言葉

やめろ...... やめてくれ

脳裏にフラッシュバックする......自分を庇う たぶん、 大

切な人達

お願い! 死なないで!!"

記憶を失って、始めて聞いた彼女の声

それをきっかけに思い出す。 願 い " と.....目の前の状況が見せる、

最悪の未来に

逃げろっ 芳 佳 " アアアア

ライは届かぬ叫びを上げる。

その瞬間、彼は灰色の世界に居た。

口の世界。 しかし、 白と、黒と、その中間であるさまざまな灰色で構成されたモノク 芳佳が見たような遠近感の無い灰色一色の世界ではない。

見える..... うなものだった。 るのように見え、 二つの球体が視界の上下にあり、上のほうは歯車で構成されて そして球体の間には、 白い太陽のようなものが

それをライは しかし混乱せずに見ていた。

なぜか、この光景を見た事があったからだ。

" 力が欲しいか?"

何処からか聞こえる女性の声..

これは契約

かつて魔女と呼ばれた女の声......記憶の片隅にある友の共犯者..

"お前が手にするのは王の力"

その力が何をもたらすのか、彼は思い出し....

"

だからこそ、 彼は言い放つ!

悪いけど.....断るっ!!」

.....なに?,

女の声は一種の戸惑いを表す。

あの時、 僕は願ったんだ

あの時の.....ような.....事を.....繰り返.....したくない.....

大切な.....ひと達.....を.....奪う.....力じゃ.....なくて..

護って.....救う.....力が.....欲しい.........

思い出したのは一つの願い。

そして、かつて得ていた絶対遵守の王の力"ギアス"

その力は、自分の大切なものを多く奪ってきた.....

自分の意思で奪った事もあった。

だけど、その力は大切を奪い、 最後もまた奪おうとした。

ても大切なものが含まれていた。

だから.....だからこそ!

僕は、その力を否定する!」

最後に大切なものを奪う力で、大切なものは護れない!

ライは灰色の世界に握っていた拳を叩きつける!

その瞬間、 世界は砕け、 光がライを包み込む.....

"フフ.....強情なヤツだ....."

どこか、飽きれと賞賛を含んだ懐かしい声

なら、その願いとやらでせいぜい護ってみせる。

ああ、護ってみせるさ・・・・・・・・・・・・・・」

思い出せないが、 自然と口から出た声の主の名前

こんどは、 忘れさせるなよ。 ライ・ "

.......そして、戦場に一つの閃光が輝く.......

## 基地滑走路

「宮藤さん?!」

「豆狸、避けなさい?!

「ミヤフジ!!」

迫る脅威を見ているだけしか出来なかった。 クロステルマン、エイラ・イルマタル・ユーティライネンは芳佳に 基地に残り、今から援護に向かおうとしていたミーナとペリーヌ・

まるで流星のように。 その時、 彼女に向かって白い光が芳佳に向かって駆けていく...

「.....少なくても、敵じゃなさそう.....「あれはいったい.....?」

そしてその手には一枚のタロットがあった。 出たのは星の正位置 エイラは近い未来の予知という固有魔法が使える。

星の正位置が示す意味は.. 希望、 願いが叶う。

## その時、私は死んだと思った。

その瞬間、芳佳はそう思っていた。

敵の特攻に回避も さらに防御も間に合わず、 ネウロイに突き

飛ばされて死ぬのだと.....

芳佳はぶつかる瞬間目を瞑り、死をもたらすものを視界から遮っ

た 少しでも死の恐怖が減るように......

......瞼の裏に浮かぶのは故郷のお母さんとお婆ちゃ リーネちゃんに上官の坂本さん イさんの笑顔 部隊の皆の顔......そして、ラ んの顔、 親友の

そして、 ライの顔を思い出した瞬間、 自分を襲う死の衝撃に身を縮めた.. 芳佳は閉じた瞳から涙を流した。

:

?

しかし、いくら待っても痛みは襲って来ない。

**私** 死んじゃったのかな? 死んだから痛みも無いのかな?)

芳佳はそう思うが、背に感じる暖かさがそれを否定する。 それを感じた時、 芳佳は堅く閉じていた瞼をゆっくりと開く

目を開いた先に見えたのは、 先ほど思い出したライの顔だった。

けていた。 そして芳佳から見えたライの頭には、 芳佳はライに俗に言うお姫様抱っこをされていた。 白地に蒼い角のある兜を付

こしてる.....」 「あれ....私、 死後の夢を見ているのかな? ライさんが私を抱っ

微笑を浮かべながら涙を流す芳佳に、 ライは優しく声をかける..

「大丈夫..... 芳佳は生きてるよ.......」

切る。 それが真実だと告げるように視界の端にネウロイのユニットが横

. えつ!?」

撃ユニット、 辺りには先ほどまで対峙していたロケット型のネウロイとその攻 そして突然の事に涙が止まった芳香は首を動かし辺りを見渡す。 そしてライと芳佳を驚愕の表情で見る仲間の視線

るけど?」 「じゃ、じゃあ放して!! いせ… ツ うん」 降ろすって言っても空中だし、ここで降ろしたら海にな ! ? ラ、 ライさん、降ろして!! 恥ずかしい!!

ライはそう言ってお姫様抱っこをしていた芳佳を解放する。

た。 彼は白と青、 そして赤の三つの色に飾られた鎧を身に纏ってい

全体的に角ばって見える白いフォルムを青が際立たせる。

腕には先端が赤い、 青いふちのある盾に見える篭手。

膝がちゃ んと動き、 外側に赤い翼が付いている脚部。

後ろには格納された青い何かを装着している。 そして腰には左右に、 柄が長く二つに割れた刀身を見せる剣と、

れる銀色の長い髪...... そして青い角をつけた顔の見える兜、 その頭頂部から後ろに流

芳佳は以前、 リーネから聞いた、騎士、のように思えた。

中 っつ て、 に居るんですか?!」 ライさん、 何ですかその格好! それにどうしてここ (空

そう、 それ以前にライは男だ。 ライはストライカー ユニットもつけずに空を飛んでい

るのは女であるウィッチのみ、ライは男であるのにウィ ロイの戦場である空に浮いている。 ストライカーユニットを起動させるのに必要な魔力を発揮でき ッチとネウ

それは僕にもよく解らな ッ!-

ライは芳佳を手で引きながら威力を秘めた光の乱射を高速で回避し 目の前に居る芳佳の手を引いてかなりの速さで飛翔にする 困っ 四つのユニットがライと芳佳を撃墜するようにビームを乱射し、 次の瞬間、 たような表情を浮かべていた顔を一瞬で引き締めたライ 二人が居た空域を赤いビームが通過する。

ていく

そう、

ストライカー ユニットを使ったウィッチよりも。

え ? 芳佳 は な だと 何ですか い説明は後で! お前、本当にライ..... 速い!」 えっ?」 って、うわあああ!?」 坂本さん!」 な h それよりも芳佳をお願いします! なのか?」 き けて、 ため

イに追いすがる。 人から離れるように飛翔し 坂本に近づいたライは手を引いていた芳佳を坂本に放り投げ、二 それを追撃するようにユニットがラ

現れ、 銃口を後方から追尾してくるネウロイユニットに向けてトリガーを 現れ、銃床が伸び、アサルトていた青い何かに手を伸ばす ライはある程度皆から離れたのを確認し、 アサルトライフルになっ すると格納されていたグリップが た物のグリップを握り、 右手で後ろ腰に装着し

がライの狙いだ。 連続で放たれる銃弾をユニッ トは散開して回避するが、 それこそ

に向けて再度弾丸を放ち 散開し、 離れすぎたせいで連携が取れなくなったユニッ 先ほど以上の精度で敵を撃ち抜き、 <u>の</u> 穴

た。 だらけになったユニットはガラスが割れるような音をたてて分解し

って声を上げる。 その音にハッとした坂本は同じように呆けている隊員全員に向か

トが奴に集中している隙にネウロイを破壊しろ!!」 しっ かりしろ! 了解つ!!」」」 あいつの事については後で説明する! ユニッ

そして坂本はライに投げられ、 今は懐にいる芳佳に声をかける

「宮藤、大丈夫か?」

「.....坂本さん......

芳佳の外見から怪我が無い事を確認して、坂本はホッとする。

せん!」 「どうやら怪我は無い様だな.....それよりもあいつはライなのか?」 .....たぶん、そうだと思います。 顔も見ました、 間違いありま

? ......ライさんもよく解らないって言っていました。 じゃあ、 でも、なんだ?」 何故、 男のはずのあいつが空を飛んでいる? でも

私を手で引いている時に聞いたんです.....」

芳佳の言葉に疑問符を浮かべる坂本に芳佳はライの言葉を口する

ためにあるんだと思うんだ.. よく解んないけど. .. この力はきっと、 皆を助けて、 護る

イに視線を向けながら芳佳に声をかける。 その言葉に坂本は思案顔になった後、 今も離れて戦闘を続けるラ

: しかし、 はい!」 とりあえず、 後でライにはしっかり事情を説明してもらうからな!」 ライは味方だと判断して今は詮索しないでおこう.

ライが味方という事に芳佳は明るい表情をして坂本に答える。

その為にもまずネウロイを片付けるぞ宮藤!」

「はい! 坂本さん!」

「いくぞ!」

そして坂本達ウィッチがネウロイ本体との戦闘を再開している時 ライは様々な角度から来る攻撃をかわしながら思考していた。

(なんで、"これ"の使い方が解る?)

解る 爆音が下から響く。 カウンターを受けたユニットは白い煙を上げて落下、 方に向け加速し、 した瞬間、 ライは上へ下へと敵を翻弄し、後ろにバックすると見せかけて前 ライは自らを包む鎧の武装が、その使用方法が、手に取るように しかし、 だがその一部がまだ思い出せていないのも事実だ。 今は目の前の敵にライは集中する事にした。 放たれたほうに向けて右手のライフルを連射する その場で右に身体をよじり紙一重でビームをかわ その数秒後、

2つ目!」

達を確認する きないでいた。 の火線を複雑な機動でかわしながら本体の相手をしているウィ ムの発射口は潰したようだが堅く守られているコアは、 ライはユニッ の撃墜を確認し、 彼女達は手にした銃器でネウロ 今だ攻撃してくるユニッ イを撃ち、 今だ破壊で ビー ッチ

柄の両端に刃がある一種の槍が姿を現す。 腰にある二振りの剣を逆手に握り、 その瞬間二つに割れていた刃は一つに戻り、 そして右手に保持していたライフルを後ろ腰に戻し.....そして 頭上で両方の柄頭を接合させる。 刀身は赤く輝き始め、

加速する。 合体した柄の中心を左手で持ち、ユニットの一つに向けて飛翔

に飛ぶ白い騎士にはかすりもせず接近を許す。 ユニットは接近してくるライに向けてビー ムを連射するが、 自在

赤い刃にネウロイの装甲は紙の如く簡単に切り裂かれていき、 の勢 まま噴射口のある後部まで両断する! そしてライは柄の握っている左手の下のほうを右手で握 いに任せたまま槍頭の刃をユニットの先端から切りつける。 ij その

に向けて石突き部分の刃を突き刺す! トが砕けて光の欠片となって散った。 そしてダメ押しとばかりに前を向いたまま、 それが決定打となり、 後ろにいるユニット

<sup>「</sup>3つ!」

ずっているのを確認して、 イはもう一度ウィッチ達のほうを見てまだネウロ ライは最後の一機に注目する...

度があ れば 装甲を銃弾で突破できないなら、 突破出来るだけ の質量と速

の武装の名を言い放つ! そして両腕を逃げようとするユニットに向け、 ライは鎧にある1

突き刺さる.. 伸びていた。 その瞬間、 篭手の赤い部分が射出され逃げようとしたユニッ その突き刺さった部分から篭手にかけて鋼色の糸が

ワイヤー 式アンカー【 スラッシュハーケン】

その言葉がライの頭に浮かぶ。

り回される。 を埋め込まれたユニットはワイヤーに引っ張られ、ライを基点に振 そしてライはその場で身体を軸に回転し スラッシュハーケン

している芳佳達に向かって叫ぶ。 ジャイアントスイング状態になり狙いを定めつつ、 本体の相手を

芳佳! みんな! そこを退けえええええ

「え? ライさん!?」

「<br />
まさか<br />
全員<br />
退避<br />
!」

直撃する。 ット弾のように本体に突撃して行き、 速をつけたままユニットは本体に向けて飛んで、その姿の如くロケ せていたアンカーを外す なっていたウィッチ達をライとネウロイの直線上から退避させる。 それを確認し、 坂本がライのしようとしている事を察し、 ライはネウロイ本体に向けてユニットに食い その瞬間、 狙いは外れずに本体の先端に 慣性にしたがって回転の加 ネウロイに射撃をおこ 込ま

ユニットは衝突に耐え切れなかったらしく、 爆発した後ネウロイ

が破壊された時特有のガラスのような音をたて、 い雪のように海に降り注いでいく。 散乱した装甲が白

を大きく削がれ、 そして自分の分身に体当りを食らったネウロイは、 裂け目から紅く怪しく光る心臓部: コ ア " 先端部の装甲 を露出

「凄い……」

「私達が攻撃しても破れなかった装甲を.....

「ああ、攻撃再か

示を言おうとしたが最後まで言えなかった 芳佳とリーネはライの力に呆然とし、 坂本は全員に攻撃再開の指

その時にはもう、 白い騎士がコアに突撃していたからだ。

ばした右手に両刃の槍、その二つある刃の片方をコアに捉え、 のような速度で飛翔する。 ロイに向かって左手に腰だめに構えたライフルの銃口を 馬を駆り、 敵に向かってランスを構える騎士の如く、 ライはネウ 敵に伸 閃光

· うおおおぉぉぉぉ!!.

コアにヒビがはいり、 コアに右手の槍をコアに突き刺す。 ライ の雄叫びと同時に左手のライフルが火を吹き、 そして飛翔の勢いを緩めず、 間合いに入った 銃弾を受けた

は白い その瞬間 破片となって周囲に散った..... コアは砕け、 鏡が割れたような音をたて、 ネウロイ

その砕けたネウロイがさっきまで居た場所には

右手に紅い刃の両頭槍と......

左手に蒼い小銃を構えた......

白い騎士が空に佇んでいた.....

**゙うん! シャーリー以上かも?!」** あいつ.....すげー速いな!!」

スピードに魅せられていた。 速さの限界を求めるシャー IJ とルッキーニは、 先ほどのライの

「ライさん.....スゴイね、芳佳ちゃん!」

「うん、そうだねリーネちゃん!」

宮藤、 感心している場合ではないぞ。 ライから話を聞かねばな

らん」

「あ、はい。 そうでし

下していったからだ。 その瞬間、ライを包む鎧が消え、 しかし芳佳は、 その返事は最後まで言えなかった。 重力にしたがって下方の海に落

「ライ?! クッ! 宮藤!- 「 ラ、ライさん!?」

「はい! 坂本さん!!」

の赤い翼を含む具足と、 ライは顔はうつむき、 坂本と芳佳は落下していくライに急速接近し、二人で抱き抱える。 黒い学生服になっていたが、膝から下まで 両手に保持している武器は消えなかった。

り刀身も二つに割れていた。 ライフルはそのままだが、 槍は紅くなっていた刃が元の鋼色にな

ライさん 大丈夫ですか?!」

ライ! いったいどうした?!」

かすかに聞こえる音に耳を済ませると 61 くら声をかけても返事も反応もしないライに二人は心配するが、

すう

た。 イは戦闘の疲れか、 それとも別の要因からか、 眠りの中にい

「よかった.....眠っているだけか...

ああ.....だが、私達がどれほど声をかけても反応しなかったんだ、

かなり疲労が溜まったのだろう」

「坂本さん、話を聞くのは

自然に起きるまで待つしかないな..... 宮藤、 お前だけでライを運

べるか?」

はい。 大丈夫です」

じゃあ頼む 全員! 基地に帰還するぞ!」

IJ そう坂本が命令し、全員で基地に帰還する.....その道中、 とルッキーニは珍しそうに芳佳に抱えられたライを見ていた。 シャー

の上で寝息を立てている。 その後、基地に帰還しても起きないライは医務室の元いたベット

の椅子に座る芳佳しか居ない。 夕焼けが室内に差し込む医務室には寝ているライのほかには枕元

思い出していた。 芳佳はライの寝顔を眺めながら、 あの時ライが言っていた言葉を

大丈夫..... 芳佳は生きてるよ.......

" 詳しい説明は後で! それよりも芳佳をお願いします!,

" 芳佳

いつ の間にか"宮藤ちゃん" から" 芳佳" になっているよ...../

つめる。 芳佳は頬を紅く染めながら、自分を救ってくれた騎士の寝顔を見 彼はまだ起きそうに無い。

だから彼女は誰もいない事を確認し、 ライの耳元で囁くように

言う

私を助けてくれて、 ありがとう..... ライ"

らすのは、 この日、 黒い絶望か? 魔女達は それとも白い希望か. 人の騎士と出会う。 その出会いがもた

## スト・カラ座談会

ラ イ 「やっと第1話投稿できたね」

たし 芳 佳 そうですね。 ライさんの名前もちゃんと出せまし

ね? ラ 1 あれ? 話の最後に呼び捨てで僕の名前いっ たよ

芳 佳 (ボソボソ)/// 「そ、それは.....だって、 部屋には私以外居なかった

ラ イ 「 ? なんだって ?」

りも鎧姿の説明を一応したほうがいいと思いますけど.....」 芳 佳 な、 何でもない! 何でもない!!!! それよ

なったのは、 イトメアフレー ラ 1 ムのランスロット・クラブ。 L O S T 「ああ、そうだね COLORS公式ホームページにあるナ ..... 今回の戦闘で見せた鎧の元と

が がさしてあります。 の部分が無くなって、ランドスピナー部分にフロートユニットの翼 外見はクラブのコックピットとランドスピナー、 ケン発射装置にはコックピットに装備されていたツインM クラブには付いているだけで、 発射できない腰のスラッシュ そして頭部の顔 V S

その他の設定等は次回から説明しますので、 楽しみにしてくださ

Ε りますからそれを了承してください!」 O F 芳 佳 T H E 「次回の更新は作者の別作品。 STRIKERS, の次話が投稿された後にな NANOH Z O N

ライ&芳佳『それでは、次回予告をどうぞ!』

N e x t

は自分達以外で空を舞う騎士に興味を向ける。 白き騎士となったライはウィッチ達に説明を迫られ、 ウィッチ達

分達の仲間として引き入れようとする。 記憶無きライには説明が出来ず、坂本はライを記憶が戻るまで自

そして、騎士は魔女達を護る騎士となる......

次回、 ストライク・カラーズ《 閃光のライ》 M i s s i 0 n 2 :

仲間 と ありがとう

僕の力は.....誰かを護るために........

## PDF小説ネット発足にあたって

ビ対応 行し、 公開できるように 小説家になろうの子サイ 部を除きインター 最近では横書きの F小説ネッ の縦書き小説 の縦書き小説 ています。 そん をイ を思う存分、 たのがこ な中、 ネッ 書籍も誕生しており、 タテ書き小説ネッ ト関連= 誰もが簡単にPDF形式 ネッ て誕生しました。 ト上で配布す 小説ネッ 横書きという考えが定着しよ てください。 トです。 既 は 2 0 存書籍 の タイ いう目的の基 07年、 の電子出版 小説を作成 小説が流 ンター

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。 http://ncode.syosetu.com/n8387k/

ストライク・カラーズ《閃光のライ》

2010年10月13日13時26分発行